## ヒアリング調査結果
## ～おやじの会～

〇実施日時：平成31年３月９日（土）　正午～午後１２時４０分
〇実施場所：西東京市立本町小学校
〇実施方法：育成会主催のドッヂボール大会終了後、大会運営に参加していた本町小学校区域の「おやじの会」メンバーに対面インタビュー形式で実施
〇回 答 者： 2人

### 「おやじの会」について、活動について

- 得意なことで、できることを、子どもや学校のためにやっている。学校の教室の壁を塗装したり、運動会の入場ポールが壊れたので作ったりしてきた。古いテニスボールを切って椅子の足につけて、ガタガタと音がしないようにしたこともある。活動は保護者たちや地域から評価いただいていると思う。
- 同じ小学校に通う子どもの父親の会が発端だが、決まりのようなものはない「ゆるい」「自由な」集まり。現在のメンバーは、10 人程度。子どもが小学生の人もいれば、すでに小学校を卒業して中学生以上になっている親もいる。子どもの卒業を機に会をやめる人もいれば、そのまま残る人もいる。
- 校長先生の理解、リードがあって、活動ができているのだと思う。
- 仕事もあり、子育て以外の家庭の仕事もあるので、「好きなこと」をする時間はあまりないのだが、おやじの会の活動そのものが「好きなこと」と言えるかもしれない。
- 他の学校にもおやじの会というものはあるが、交流はあまりない。交流があってもいいかな、とも思う。
- 「おやじの会」そのものが、子育てや地域の活動に積極的な人の集まりなので、ヒアリングでの意見は一般的な「父親」の意見とは異なると思う。

### 子育てをしていて感じること

| | 良く感じる | どちらでもない | あまり感じない |
|---|---|---|---|
| 1　子どもとの生活が楽しい | 2 | | |
| 2　子どもの成長が楽しみ | 2 | | |
| 3　子どもの個性や意見を尊重できている | | 2 | |
| 4　子育てに不安になることがある | 2 | | |
| 5　自分の好きなことする時間がある | | 1 | 1 |
| 6　子育てにかかる経済的な負担を感じる | 1 | | 1 |
| 7　一人ぼっちで子育てをしている感じがする | | | 2 |
| 8　子育てと仕事や家庭のことがうまく両立できている | 2 | | |
| 9　子どもを通じて地域とつながりが感じられる | 2 | | |
| 10　子育てを通して自分自身が成長している | 2 | | |

- 「子どもの個性や意見を尊重できている」については、尊重したいし、しようとはしているが、どうすれば尊重したといえるのかわからない。
- 「子育てに不安になることがある」については、思い通りになることではないが、勉強

がきちんとできているか、友だちとちゃんと仲良くできているかなど、子どもの成長に対する不安を感じている。

- 「子育てと仕事や家庭のことがうまく両立できている」については、それなりに両立しているのでは…と思うが、仕事の時間を削減できればもっとうまくできるかもしれない。

### 子どもや子育てについて

- 子どもの個性は尊重したいし、すべきと思う。しかし、何でも子どもの言うことを聞くということとは違うと思う。
- 子育てについて理解のある職場もあるのだろうが、自分の周りでは育休をとったお父さんはいない。自分も育休をとることは考えなかった。世の中はまだまだ「育児はお母さん」という意識が高いのではないかと思う。
- 自分の子どもはもう大きいが、まだ小さかったころ、子どもの成長に対しての不安はあった。子育てについてではなくとも、勉強の進み具合がどうなのか全くわからないなど。ただ、そのあたりについて、母親はわかっていたのではないかと思う。
- 父親が子育てについて相談しやすいところというものは、少ないと思う。あるのかどうかもわからない。また、あったとしても父親がそこに相談にいくかどうかは別の話ではある。学校や先生は相談先として思い浮かびやすいが、家庭の子どものことを学校に相談してもいいのか、と迷うところもある。
- 父親の子育てへの参加については、自分たちは参加しているのでは…と思っているが、母親から見ると「まだまだ」と思われているのでは、と感じている。

### 市や地域のサークルなどが主催するイベントや講習に、参加してみたいか

- イベントや講習に参加する際の条件・求めることは、「同年代の子どもがいる保護者同士の交流」「有識者から知識が得られる」「子どもと参加できる」「安価・無料」である。
- 普段触れることができないものであれば、参加してみたい。例えば、工場やインフラ（地下鉄をつくる過程、調圧水槽などの排水施設等）の見学など。また、自分ではなかなかやりにくいような、初めての体験ができるイベントなど、興味があるものであれば参加したい。
- 参加してみたい活動の種類は、「運動に関する活動」「文化・芸術に関する活動」
- どんな良いイベントがあっても、平日では参加しにくい。

### 市や地域の人たちに「こうあってほしい」と思うこと

- 経済的な支援を求めるということは特にない。お金（予算）が必要な活動は特にないし、壁塗りのペンキなど、使うものは学校が用意してくれている。それに対して、会は人手を提供するというものなので。
- 人（メンバー）は増えてほしい。市には広報活動などに協力してもらえるといいなとは思う。
- おやじの会はあちらこちらの学校にあると思うが、その活動を紹介してもらうだけでも地域の理解が高まるのではないか。
- 事務局、というほどのものでもないが、問合せ先のような「場所」があるといいとは思う。今は学校か居酒屋が集まりの拠点のようなもの。ただ、こういうゆるい感じ、ふわっとした感じの方が活動は続くのかもしれない。

まとめ----------

〇「自分の子どものいる小学校に貢献」が活動の起点ではあるものの、活動を続けている人（おやじ）にとって、地域活動はすでに自分自身の生きがいとなっている様子がうかがえた。

〇自分の子どもは小学校を卒業しているが、その学校で行われる行事への協力をしている例など、「自分の子」「よその子」という意識はそこにはない。「（地域の）子どもたちのためになるならば、自分にできることをやろう」が行動の原点になっている印象を受けた。

〇父親の育児参加については、職場で周りを見てみても「世の中で言われるほど浸透していないのでは。」という実感を持っているようだった。